



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### サウジアラビア：トルキイ・ファイサル王子の講演

(3月8日付現地紙)

3月7日、アブダビのUAE 戦略研究センターで開催された「アラビア湾治安制度会議」で、トルキイ・ファイサル・イスラム研究所所長（前駐米大使）が「GCC 諸国が直面する脅迫と危険」と題する講演を行った（概要）。

#### 1. イラン関係

- (1) GCC は、その安定を覆し、経済、政治、社会的安定を脅かす危機に直面している。アラブ側沿岸にスンナ派国家が、そして対岸にシーア派のイランと、アラビア湾の両岸に宗派及び政治的対立があるといった嫌悪と敵対心を煽るような論調を書き立てている評論家は、中東地域から遠くにいる人たちであり、かかる報道は、イランを肥沃な三日月地帯に手を伸ばそうとしているシーア派の中心に仕立て上げた。
- (2) 先日のアブドラ国王とアフマディネジャード・イラン大統領の会談では、イラクで燃え上がっている党派主義の炎を鎮め、レバノンの騒ぎを収める為に協力することで両者は合意した。
- (3) イランは隣の友邦国であり、歴史的絆、経済的利益及び近い社会習慣を持った国であると見るのが好ましく、仮にイランと GCC 諸国間に宗派の違いがあっても、それが敵意や嫌悪を引き出すことにはならない。
- (4) 「シーア派三日月地帯」という夢の代わり、或いは、その実現を怖れる代わりに、地域住民全てがシリアを筆頭に、ヨルダン、パレスチナを含むイラクからレバノンに到る「肥沃な三日月地帯」を形成し、建設、繁栄と幸福を共にし、湾岸諸国もその利益にあずかることが出来よう。
- (5) イランがアラブの領土の一部を占領している状態は続かないということを、イラン自身が直視することを願っている。

#### 2. 核問題

- (1) GCC 諸国は、精神的且つ経済的に全中東諸国の治安の安定化に努力しており、サウジは GCC 諸国と共にパレスチナ問題の公正なる解決、中東地域からの核兵器廃絶の重要性、地域諸国が核を含むあらゆるエネルギーを平和利用する権利を有することを確認した。
- (2) ダブルスタンダードを適用している国際社会は、我々とイランには核の知識の獲得を禁じるばかりか非難する一方で、今や核爆弾を有するイスラエルに対しては背中を向ける権利はない。

### 3. レバノン問題

- (1) サウジ及び湾岸諸国は全てのレバノン各派と連絡を取り合っており、レバノン政治危機の一方の当事者であるヒズボラがイランと結びついていても、レバノンにおける我々の同盟者はスンナ派以外有り得ないと言うことは出来ない。何故なら、イスラム世界におけるサウジの立場は、宗派の別なく、イスラム教徒か否かを問わず、全てのアラブ及びイスラム教徒の為になるように決定することだからであり、これがレバノンにおけるサウジの立場である。
- (2) サウジは、レバノンに関してイランと争うのではなく、対話を開始することの重要性に気がついた。というのも、サウジとイランとの間に起きる如何なる争いも、外部に広がってしまうであろうことは疑いないからである。

### 4. イラク問題

- (1) イラク問題については、現在毎日血が流されている状況にあり、一刻の猶予もならず、サウジ、湾岸、アラブ及びイランの協力が必要不可欠である。
- (2) 残念ながら、イラクの政治勢力は、共生、権力を分かち合うこと、権利を有する者に権利を与えるという理性に訴えるということを未だ学んでいない。

### 5. テロ問題

中東地域においては、武器を使用して暴力に訴えるにせよ、言葉により訴えるにせよ、テロリズムと宗教的過激主義こそが、嫌悪と憎しみを助長する真の危険である。